

# 至徳

射水市立金山小学校 学校だより



令和4年12月9日

第13号

## 学校へ行ってみようデー

先月の25日（金）に開催した学習参観「学校へ行ってみようデー」に多数お越しくださり、ありがとうございました。半日の学習公開の内、自由に参観できるということで、普段に近い学習の様子をご覧いただけたのではないのでしょうか。

当日は、県総合教育センターの方、金山里山の会の方をお迎えし、出前授業もしていただきました。総合教育センターの方には、低学年で「しゃぼん玉遊び」を、中学年では「風船ホバークラフト作り」を、高学年は午後に「化石の発掘」の授業をしていただき、金山里山の会の方には、5年生で「シイタケの菌床作り」の授業をしていただきました。いずれも「こんなことができるんだ」や「こういうふうにするんだ」という不思議がいっぱいある内容で、子供たちは好奇心をくすぐられたようで、どの子の表情からも笑顔が溢れていました。

放課後には、教員も総合教育センターの先生方と「電気のはたらき」の授業について研修を行いました。本校の教員は、日頃から「子供たちが興味や関心をもって取り組み、『分かった』『できた』を感じる事ができる授業」になるように努めていますが、研修をして、改めてその大切さを実感することができたようです。

学校へ行ってみようデーは、金山小学校のみんなが大いに学んだ一日でした。



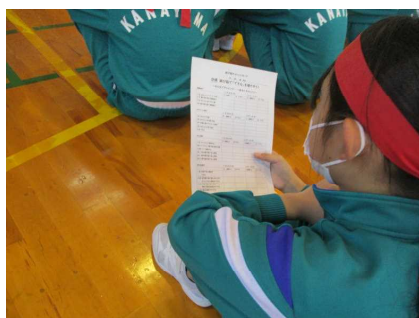
## 跳び箱指導

11月28日（月）と今月1日（木）の2回、5・6年生が富山国際大学の金子先生と学生

さん方に、跳び箱指導をしていただきました。

跳び箱は、恐怖心から跳ぶことができず、苦手意識をもつ子が多い種目です。そういうこともあって、無理をさせず少しずつ段階を踏んで上達できるように工夫して指導してくださいました。その一つに、チャレンジカードの活用がありました。これはできたことに対しポイントが付くものです。例えば開脚跳びでは、「台の上にまたがる」、かかえこみ跳びでは「台の上で正座」することからポイントが付きます。いずれもまだ跳ぶには至ってないのですが、それも「いいよ。いいよ」と認める工夫がありました。つまり、跳べるようになるまでの前段階からの過程も大切にしているということです。これにより子供たちは、いろいろな跳び方に前向きに取り組めたようでした。

金子先生と学生さん方の指導により、子供たちは跳び箱について自信を深めたり、苦手意識を小さくしたりすることができたようでした。



## ドローン操作体験

8日（木）、5・6年生が富山県立大学の岩井教授と5名の学生さんの指導の下、ドローン操作の体験を行いました。まず、学生さんに模範操作を見せてもらった後、早速、それぞれが操作をしました。操作はタブレットを使って行います。

子供たちは、最初こそドローンを壁にぶついたり、天井まで上げ過ぎたりしていましたが、次第に感覚をつかみ、上下させたり、向きを変えて前進させたりする操作を上手にこなしていました。

操作に慣れてきたところで、次はプログラムを組んで操作をしました。出発点から進みたいところまでの距離や方向を調べて、それをプログラムに組み込んで指示をします。子供たちはこれにもすぐに慣れて上手に飛ばしていました。

プログラミングをしたことは、学習において求められている「目的をもって手順を考え、その先の手順を見直すことで課題を解決する力」（論理的思考力）を身に付けることに繋がるものだと思います。「あっ、こうすればいいんだ」「次、こうやってみよう」と楽しくドローン操作をしながら、少しずつですが、そういう力を身に付けていっているような感じがしました。

